

令和6年度 学校自己評価計画書

重点目標		具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果・課題)及び後期の扱い	評価
1	授業実践力の向上 (教科指導の充実)	教員がICT機器を活用し、授業検討や模擬授業、整理会などを通して実践報告書としてまとめ、授業実践力の向上につなげる。	教務課 (研究)	授業づくりの成果や課題を明らかにできたことが「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた教員の割合が、 A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	ICT機器を活用した授業実践や成果課題を明らかにできているか4段階評価で「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた教員の割合が75%である。	毎月実施しているGIGA研修に参加することで、授業でのICTの活用の仕方や授業作りについて、教員の知識や技能が少しずつ上がってきていることが考えられる。今後は、より授業のねらいや児童生徒の実態に即した効果的なICTの活用の仕方について考え、実践を繰り返し授業実践力の向上につなげていく。	B
2	地域社会との連携	交流先と地域の状況や環境を鑑みて内容を工夫して行い、活動ごとに児童生徒の様子について学部だよりや連絡帳により活動の目的や児童生徒の変化の様子を保護者に随時伝え、人との関わりについての成長を目指す。	全学部	児童生徒の変容について「とても満足できる」「満足できる」と答えた保護者の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	学部だよりは、各部の行事の様子を中心に執筆し、9月末において小学部8、中学部5、高等部4の発行となっている。 連絡帳には、児童生徒の日々の様子や変化を伝えるようにしている。	育友会の会議等で、どのような成長が見られたか、問いかけたが、保護者からの言葉は聞かれていない。 学部だよりを観ると写真だけの情報のため、児童生徒の成長の様子が分かりにくく、また、連絡帳でも事務的連絡を書くことがあり、保護者から成長の様子としてとらえられにくいのではないかと考える。 今後は、学年だよりの写真にもコメントを多くつけたり、児童生徒の成長した面を意識して連絡帳を書いたりしていかなければならない。	—
3	安心・安全な学校づくり	年2回の避難訓練(火災、地震・津波)以外に、徐々にレベルを高くしていく「分校版シェイクアウト」を実施し、児童生徒の避難動作の向上を目指す。	生活支援課(生徒指導)	避難動作を自主的に行えるようになった児童生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	3段階評価で「一人でできた」の評価がついた児童生徒の割合が54%である	7月に実施したシェイクアウト訓練から、今年度より運用を始めた「避難行動チェックシート」で児童生徒の避難行動を8つの項目で評価した。チェックシート作成に時間を要したことと、10月現在で1度しか訓練を設定していなかったこともあり、数値目標が達成できていない現状である。今後は予定されている避難訓練と避難動作を行う児童生徒の実態と評価を照らしながら、計画的に訓練を実施していく。	D